

Q 3 : 小学校において、子どもが生き生きと係活動に取り組むためには、どのようなことに気を付ければよいか。

A : 子どもたちが主体的に考えた係活動に生き生きと取り組ませるためには、以下に示す例のように、係活動のための「時間・場所・物」を発達段階や実態に応じて、子どもたちに提供することが大切である。

【時間の保障】

「打合せの時間」及び「定期の活動の時間」を与える。

例) 月曜日の朝の会は、係の打合せの時間というように決める。
帰りの会などに報告の時間を取り入れる。(日替わりで2～3の係が報告する。)

日常の活動以外に、全員が一斉に活動する係活動の時間(打合せや活動の時間)を定期的に保障することが大切である。

【場所の確保】

係の座席を決める。

例) 「係の席に移動します。」の一言で子どもが机を並べ替え、移動できるようにする。
それだけで、係の話し合いや活動が進めやすくなる。

係活動コーナーを設定する。

例) 係が自由に使える掲示板を用意する。
いつまで掲示するかをはっきりさせておく。

係ごとにロッカーを用意する。

例) 空いたロッカーをそれぞれの係に割り当てる。
紙の箱やかごを用意し、道具や制作途中の新聞などをその中に入れる。

係活動コーナーや係ごとのロッカーの付近に、すぐに作業ができるようなスペースがあると便利である。

【物の提供】

自由に使える物を用意する。

例) 各種紙類(模造紙、色画用紙、折り紙)
のり類(のり、セロハンテープ、ガムテープ)
マジック類(水性、油性、ポスターカラー)
ナイロンテープ など

あると便利な物を用意する。

例) 係ごとのかご、引き出し
ストップウォッチ
CDラジカセ
電卓 など

活動の幅が広がる物を用意する。

例) パソコン
プリンター
デジタルカメラ など

事前に使い方のきまりや保管の仕方を指導することが大切である。特に、壊れやすい物、高価な物、危険な物については、細心の注意を払いたい。